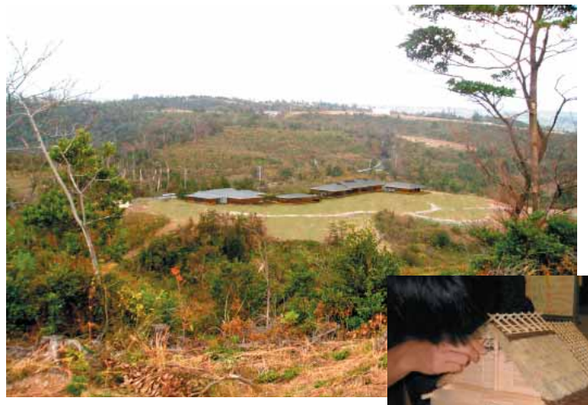
うぁ！！ Urheimat ハイマート

実績のあるプロジェクトの紹介

古民家Ｂ＆Ｂ構想
琴浦町河本家住宅の調査と保存活用計画

琴浦町の河本家住宅は棟札により貞享五年（1688）の建立と知られ、県の保護文化財に指定されている。昨年度、本学環境デザイン学科は河本家住宅の悉皆的な調査をおこない、報告書を刊行した。その報告書では、河本家住宅の活用にも言及しており、とりわけヨーロッパ型Ｂ＆Ｂ（Bed and Breakfast）の導入を強調した。Ｂ＆Ｂは日本の「民宿」の概念に近い宿泊施設だが、旅客に提供するのは寝室と朝食のみであり、所有者の負担が小さいところに最大の特徴がある。夫婦二人住まいの河本家にはうってつけの活用スタイルであり、これは県内中山間地域の多くの古民家に応用可能である。今年度は河本家保存会や県企画部地域自立戦略課等と連携して、河本家住宅Ｂ＆Ｂプランをたちあげ、これをパイロット・プランとして、将来的には古民家Ｂ＆Ｂのネットワーク作りにつなげたい。

妻木晩田遺跡の整備基本計画支援
復元建物と遺構露出展示



山陰を代表する弥生時代後半の高地性集落「妻木晩田遺跡」（国史跡）の遺跡整備を全面的に支援する活動を続けている。おもに鳥取県環境学術研究費の助成により、1) 妻木晩田丘陵洞ノ原地区の麓に立地する旧県立淀江産業技術高校校舎のコンバージョンによる「拠点施設」の設計案提出（平成 15 年度）、2) 松尾頭地区に予定されている巨大な遺構露出展示施設の設計案提出（平成 16 年度）、3) 松尾頭地区の大型掘立柱建物 MGSB-41 の復元設計図・復元模型の提供（平成 16 年度）、などをおこなってきた。また、同遺跡現地事務所における本学３年生のインターンシップも平成 16 年度から始まり、大学との交流が深まっている。今年度は松尾頭地区の大型竪穴住居の復元設計に取り組む。

国史跡「鳥取藩池田家墓所」修復整備の支援

「平成の大修理」と銘打つ鳥取藩池田家墓所（国史跡）の修復事業が平成 16 年度から始まった。池田家墓所は、歴代藩主 11 代や夫人・重臣等を集合埋葬する珍しい大名墓所で、計 78 基の墓碑が修復の対象となっている。問題は墓碑そのものよりも、それを囲む玉石垣と門の劣化・倒壊である。石造の玉垣は構造がきわめて不安定であり、なんらかの構造補強を施すしかないのだが、補強の手法が不適切な場合、それが文化財的価値の高い古材を劣化させる主因となる。この矛盾を解消すべく、本学環境デザイン学科のメンバーは池田家墓所保存会と連携し、初代光仲墓の測量と劣化調査をおこなって、詳細な「部材カルテ」を作成した。これをうけて、本年度は修復と構造補強の基本方針を示す予定である。

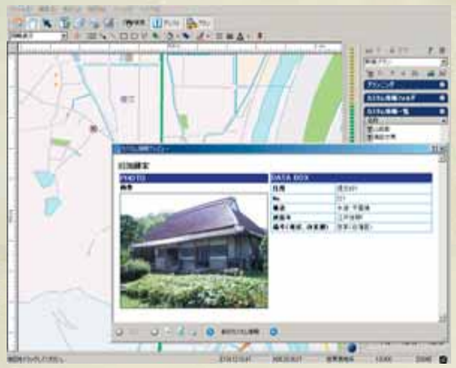
Reversible Rehabilitation
旧鳥取藩御殿医住宅の再生

鳥取市倭文（しとり）に、18 世紀の建築と推定される鳥取藩御殿医の旧宅が残っている。環境デザイン学科では、平成 15 年に調査を始め、平成 16 年にその再生計画に取り組んだ。施主を単身赴任する本学教授と仮想し、解体化する現代家族の構成員が寄りつどう場を過疎地の「茅葺き民家」に求めるコンセプトを示す一方、旧宅の文化財価値を尊重し、いざとなったら元にもどせるリーバシブルな改築手法を徹底した。昨今、マスコミなどでとりあげられる before ／ after などの劇的改築に注目が集まっているが、文化財価値が高い建造物の場合、その価値を保ちながら、アメニティの高い住まいに改修していく必要があり、今後も古民家再生のあり方としてリーバシブルな改築手法の開発に努める。

「廃材でつくる茶室」プロジェクト

循環型社会にふさわしい建築のあり方とは何か。この問いに答えるための実験を、本学の学科横断型演習「プロジェクト研究１～４」（１・２年生）で繰り返しおこなっている。基本コンセプトは「材料を買ってはならない」ことである。県内工務店の廃棄物置場を漁って古材を集め、大学の裏山に繁茂する竹や雑木、河原の石も建材とした。平成 16 年度前期は「ツリーハウスに挑戦！」と題するプロジェクトで、大学の裏山にツリーハウスを建設した。同年後期は「廃材でつくる茶室」プロジェクトを実施した。数寄屋大工をめざす４年生がリーダーシップをとり、20 名前後の学生が参加。設計から施工の全工程を学生自らこなしたが、なお内装等を残しており、現在も作業は後輩たちに受け継がれている。平成 17 年度前期は「ダンボール大作戦」というプロジェクトを展開中である。

GPS＆デジカメによる文化財建造物MAP作り
市町村合併と文化財の地域問題



市町村合併は、文化財保護行政にも大きな影響をもたらしている。とりわけ、１市５町２村による大合併を敢行した鳥取市の場合、面積 765k㎡におよぶ市域にどれほどの歴史的建造物が存在するのかさえ把握できていない。昨年度（平成 16 年度）、鳥取市から委託された「鳥取市歴史的建造物調査研究（鳥取市歴史的建造物等のデジタル処理による目録・地図作成）」により、旧市内に分布する 730 件の歴史的建造物［神社 140 件、寺院 81 件、民家等 509 件］について、デジタルＭＡＰを作成した。ＧＰＳとつないだデジカメで撮影された写真画像と国土座標を基礎データにして、パソコン画面上のデジタルＭＡＰ上に位置を示すアイコンが表示され、それをクリックすると画像と基礎データが画面に表示されるシステムである。今年度は、新鳥取市旧郡部の文化財建造物撮影をおこない、市域全体のデジタルＭＡＰを完成させる。３学科合同の活動が期待されるプロジェクトである。

倉吉再興
循環型社会形成に寄与する歴史的まちなみの再生

倉吉市打吹玉川の白壁土蔵群は、平成 10 年に国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に選定された。これにより歴史的町まちなみの保存修景・活用事業が進む一方で、住民の転居等による市街地の空洞化が進んでいる。本学開学以来、鳥取県環境学術研究費等の助成により、重伝建地区およびその周辺エリアにふさわしい建物ストックの活用について地域の建築家とともに調査研究を積み重ね、住民の意識変化をふまえながら、継続居住の意向と将来の生活環境像に対する提案をおこなっている。平成 14 年度には、「HOPE 計画全国シンポジウム倉吉大会」で本学環境デザイン学科１年生が町家活用の具体案を示した。また、平成 15 年には重伝建地区内で火災が発生し、焼失した２棟の町家の復興計画案を同学科３年のプロジェクト研究６で取り組み、「倉吉再興」と題する報告書にまとめた。今後は重伝建地区周辺のまちなみの調査を継続し、その活用計画を考えていきたい。